

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1992000016		
法人名	社会福祉法人にんじんの会		
事業所名	グループホームにんじん・上野原		
所在地	山梨県上野原市上野原522番地		
自己評価作成日	平成24年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年11月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

様々な理由で当施設に入所されている利用者様が、出来るだけ以前の生活に近い毎日を送れるように支援する事を、職員一同目指しています。また利用者様の有する能力を維持できる様、支援しています。施設自体はようやく一年経ったところで、住環境はとても良いと思っています。これからも利用者様にはできる事はやって頂き、できない部分を職員がフォローしていく、利用者様や家族と一体となった施設にしていきたいと考えています。また地域の方々との交流を数多く実施し、地域との共存・共栄を推進していきたいと考えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は中央道と国道20号の間に位置した閑静な住宅街の一角にあり、通所介護、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護の事業所が併設され、建物の2階がグループホームと小規模の宿泊室となっている。事業所間で看護師の支援も受けられる為、心強い。開設後1年余り、と新しい為課題はまだ多いが、地域に根ざした開かれた事業所として、良質なサービスが提供できるよう、管理者を中心として職員一同が真摯に取り組んでいる。職員の支援の元、利用者は明るい表情で会話したり、穏かで、落ち着いた日々を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームにんじん・上野原

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(ゆず)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々その理念等を共有、実践している。	法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々その理念等を共有、実践している。	法人全体の理念と目標がフロアの壁に掲げられている。今後、グループホーム独自の理念の作成も検討している。年度初めの会議で職員一同に周知させている。職員は日々の支援の場で理念を実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にもできる限り参加し、また事業所での行事にも地域の方々を招くなど、積極的に地域との交流を図っている。	地域の行事にもできる限り参加し、また事業所での行事にも地域の方々を招くなど、積極的に地域との交流を図っている。	自治会に加入している。地域の盆踊りや祭り、コンサートなどに出掛けている。島田中学校、上野原中学校の生徒が体験学習に訪れたり、保育園児の訪問もある。事業所の夏祭りには民生委員や多くの地域住民が訪れ、地域との交流の場は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を、行事等に招く事はあるが、認知症の人の理解や支援の方法についてはまだ発信できていない。	地域の方々を、行事等に招く事はあるが、認知症の人の理解や支援の方法についてはまだ発信できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、利用者様や地域の方々とも意見交換を行ない、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、利用者様や地域の方々とも意見交換を行ない、サービスの向上に繋げている。	会議は家族全員に通知して数名の家族の参加もある。事業所の取り組みや現状報告の後、参加者より意見や要望を聞いている。出された意見より職員の写真入りの額をホームの入り口に吊るした。必要な意見、要望はサービスに繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不定期ではあるが担当部署や地域包括支援センターを訪問、事業所の現状やサービスについても伝えながら、協力関係を築いている。	不定期ではあるが担当部署や地域包括支援センターを訪問、事業所の現状やサービスについても伝えながら、協力関係を築いている。	行政も推進会議に参加している為、事業所の現状は理解している。推進会議で出た意見への対応結果や事故報告をしたり、監査時のアドバイスや指導を受け良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状では「禁止の対象となる具体的な行為」についての理解度は7割程度と考える。今後は勉強会等を実施し、周知徹底を図っていく。現場では身体拘束をしないケアには取り組んでいる。	現状では「禁止の対象となる具体的な行為」についての理解度は7割程度と考える。今後は勉強会等を実施し、周知徹底を図っていく。現場では身体拘束をしないケアには取り組んでいる。	初めて福祉現場に就職した新人は、今後の研修で学び知識を深めてゆく。法人全体の勉強会で学んだり、事業所独自の勉強会をしている。歩行不安定な人に制止する言葉が出る時がある。センサーやチャイム、ドアへの工夫がされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については管理者や職員同士で常に注意を払っているが、今後は「虐待防止の徹底」について勉強会を実施していく。	虐待については管理者や職員同士で常に注意を払っているが、今後は「虐待防止の徹底」について勉強会を実施していく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についてはまだ全職員に制度の理解があるとは言いがたい。虐待関連同様、早急に勉強会を実施し、その主旨などについての理解を深め、共有していく。	権利擁護についてはまだ全職員に制度の理解があるとは言いがたい。虐待関連同様、早急に勉強会を実施し、その主旨などについての理解を深め、共有していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については管理者や計画作成担当者が、十分に説明し理解・納得を得ている。	契約については管理者や計画作成担当者が、十分に説明し理解・納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(ゆず)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や日常来訪されるご家族様からの意見や要望を、運営推進会議等で外部者にも知らせ、運営にも反映させている。	利用者様や日常来訪されるご家族様からの意見や要望を、運営推進会議等で外部者にも知らせ、運営にも反映させている。	推進会議時や面会の折に意見や要望を聞いている。支援の場へ出た意見や要望は主任を通し管理者に報告され日誌などにも記録される。食事の形態に対する希望や、入院して退院後の受け入れに対する要望があり対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議やミーティングを開催、職員の意見や提案などを、運営に反映させている。	定期的に会議やミーティングを開催、職員の意見や提案などを、運営に反映させている。	月1回、全職員でミーティングをしている。利用者の居室に簡易型のセンサーの設置、トイレの中に棚がほしい、推進会議後に食事をしたら、など意見やアイデアが出され、社会保険に加入してほしい、の意見も出た。普段から意見は出し易い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の会議等で管理者より実績や勤務状況を把握されている。	法人内の会議等で管理者より実績や勤務状況を把握されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会を定期的実施している他、外部の研修にも積極的に参加させる機会を設けている。	法人内の勉強会を定期的実施している他、外部の研修にも積極的に参加させる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との会議や勉強会にも積極的に参加、サービスの質の向上に努めている。	地域の同業者との会議や勉強会にも積極的に参加、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の契約の段階でご本人のみならず、ご家族様からも要望をお聞きし、安心確保の為の関係づくりに努めている。	入居前の契約の段階でご本人のみならず、ご家族様からも要望をお聞きし、安心確保の為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する受付や申し込みの段階でご家族様からも要望をお聞きし、関係づくりに努めている。	入居に関する受付や申し込みの段階でご家族様からも要望をお聞きし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受付や申し込みの段階で、要望されている支援の優先順位を話し合うなどしている。他のサービスを含めてトータルな対応に努めている。	受付や申し込みの段階で、要望されている支援の優先順位を話し合うなどしている。他のサービスを含めてトータルな対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることはして頂いたり、職員と一緒に家事動作を行うなどして、関係構築を図っている。	利用者様のできることはして頂いたり、職員と一緒に家事動作を行うなどして、関係構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(ゆず)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	法人や施設の決まりに基づいて、家族共々ご本人様を支援するよう努めている。	法人や施設の決まりに基づいて、家族共々ご本人様を支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	公共施設などでの催し物や近所のスーパーにも積極的に申し込む等、可能な限りの外出支援に努めている。	公共施設などでの催し物や近所のスーパーにも積極的に申し込む等、可能な限りの外出支援に努めている。	利用者の希望で買い物に同行する。地域の行事に参加したり、可能な限りの外気浴や花見など馴染みの場に出る機会を作っている。編み物好きの人には編み物が継続できる支援をしている。年間行事としての外出計画の作成を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や行動パターン等にも目を配り、利用者様同士の関係も把握している。複数の利用者様と共に一緒に作業をする等、利用者様がお互いに関わり合える環境整備に努めている。	利用者様の性格や行動パターン等にも目を配り、利用者様同士の関係も把握している。複数の利用者様と共に一緒に作業をする等、利用者様がお互いに関わり合える環境整備に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される等して契約が終了した利用者様に対しても、必要に応じてフォローしている。	退居される等して契約が終了した利用者様に対しても、必要に応じてフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアの中で、積極的にコミュニケーションをとり利用者様の意向の把握に努めている。	日常のケアの中で、積極的にコミュニケーションをとり利用者様の意向の把握に努めている。	現在入居している利用者のほとんどは自分の意思を表出できる。表出できない人は表情や動きから察知したり家族より情報を得ている。毎日の申し送りや個人記録で職員全員が情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や趣味・嗜好などの把握に努め、コミュニケーションの中でも利用者様の意向を尊重したケアを実施している。また居室には馴染みの家具や写真、アルバムなどを置いて頂いている。	利用者様の生活歴や趣味・嗜好などの把握に努め、コミュニケーションの中でも利用者様の意向を尊重したケアを実施している。また居室には馴染みの家具や写真、アルバムなどを置いて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人々々、自由に過ごして頂く時間を設けている他、ディサービス等の利用者様と一緒に体操なども実施し、心身状態や有する能力の現状把握に努めている。	個人々々、自由に過ごして頂く時間を設けている他、ディサービス等の利用者様と一緒に体操なども実施し、心身状態や有する能力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なミーティングを開催し、利用者様の現状について意思統一を図ると共に、必要に応じて本人様やご家族様とも話し合っている。その結果現状に即した介護計画を作っている。	定期的なミーティングを開催し、利用者様の現状について意思統一を図ると共に、必要に応じて本人様やご家族様とも話し合っている。その結果現状に即した介護計画を作っている。	契約開始時と、入院した利用者の退院時に担当者会議を行っている。月一回を定時のミーティングとしているが、日々の申し送り時や状態の変化時にもモニタリングをして、必要な計画の変更や修正を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録表を作成し日々の様子を記入、観察し、職員間で情報共有を図っている。	ケア記録表を作成し日々の様子を記入、観察し、職員間で情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(ゆず)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している通所介護事業所にも利用者様をお連れし、体操やゲームをする等、利用者様本位のケアを心がけている。	併設している通所介護事業所にも利用者様をお連れし、体操やゲームをする等、利用者様本位のケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物にも積極的に参加、有する能力を維持できる様支援している。	地域の催し物にも積極的に参加、有する能力を維持できる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様一人ひとりのかかりつけ医とも連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者様一人ひとりのかかりつけ医とも連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。	家族対応で以前からの係りつけ医を継続されている利用者が多い。家族の都合の悪い時は有償でヘルパーなどが同行支援する事もある。受診結果は記録して家族に報告したり職員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝看護師を交えたミーティングを実施、利用者様の体調管理に努めると共に、日中も利用者様に特変などが生じた場合、看護師と共にケアに当たっている。	毎朝看護師を交えたミーティングを実施、利用者様の体調管理に努めると共に、日中も利用者様に特変などが生じた場合、看護師と共にケアに当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも情報交換を行っている。協力病院とも、他事業所で関連がある為、つね日頃より関係作りを行っている。	入退院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも情報交換を行っている。協力病院とも、他事業所で関連がある為、つね日頃より関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方についてはまだ本人様やご家族様との話し合いはできていない。	重度化や終末期のあり方についてはまだ本人様やご家族様との話し合いはできていない。	現在は比較的に元気な利用者がほとんどのため、家族と看取り迄の確認はしていないが、家族が特養への申し込みをしているケースもある。今後は訪問看護との連携で希望される利用者には、看取り迄を受け入れる方向で検討し、準備をしている。	看取り受け入れの検討をされている、とのことだが、住み慣れた所で温かな人々に見守られて最期を迎えるのは、誰もが望むことと思う。終末期のマニュアル作りや職員教育など大変な準備が必要となるが受け入れが実現されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルは整備されているが、まだ経験の浅い職員も居る。経験の浅い職員をはじめ、全職員を対象にした訓練・勉強会を早急に実施したい。	急変時の対応マニュアルは整備されているが、まだ経験の浅い職員も居る。経験の浅い職員をはじめ、全職員を対象にした訓練・勉強会を早急に実施したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。今後は夜間の災害を想定した訓練を実施し、利用者様や職員が安全に避難できるスキルを身につける。地域との協力体制についても、早急に打ち合わせを持ちたい。	定期的に火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。今後は夜間の災害を想定した訓練を実施し、利用者様や職員が安全に避難できるスキルを身につける。地域との協力体制についても、早急に打ち合わせを持ちたい。	8月の地震想定訓練時は地域住民も参加した。避難時は外階段を利用する。車イス利用者は職員4名で対応するなど確認した。事業所が耐震建築のため非常時は地域の避難所になる可能性もあり今後も夜間想定を含めた訓練を継続して行く。	災害は何時、どのような形で発生するか分からない。休日や夜間想定訓練や初期行動、また地域や消防との協力体制の確認、防災頭巾の準備、連絡網訓練など内容を深めての準備を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様の声に耳を傾け、丁寧な声掛けや言葉遣いをするよう心がけている。	常に利用者様の声に耳を傾け、丁寧な声掛けや言葉遣いをするよう心がけている。	T、P、Oを基本としている。利用者と呼ぶ時は姓としているが同姓の時は名前に、さん、をつけて呼んでいる。プライバシーや羞恥心についても職員は理解している。書類管理も徹底されている。職員採用時に守秘義務の誓約書を書いている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(ゆず)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様には普段より「困ったことや、相談事があったら何でも聞いて下さい。」とお伝えしており、職員にも利用者様本位のケアを行うよう、指導している。	利用者様には普段より「困ったことや、相談事があったら何でも聞いて下さい。」とお伝えしており、職員にも利用者様本位のケアを行うよう、指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは大方決まっているが、基本的には利用者様のペースで過ごせるよう配慮している。	一日のスケジュールは大方決まっているが、基本的には利用者様のペースで過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を着られるよう支援すると共に、季節の変わり目にはその時季にあった洋服等を用意して頂けるよう話している。	季節に合った洋服を着られるよう支援すると共に、季節の変わり目にはその時季にあった洋服等を用意して頂けるよう話している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	有する能力を発揮できるよう、利用者様には食事の下こしらえや食器拭きをして頂いている。	有する能力を発揮できるよう、利用者様には食事の下こしらえや食器拭きをして頂いている。	昼はデイサービスセンターからより食事が運ばれてくる。朝、夕は事業所で作り、出来る人が皮むきやテーブル拭きなどの作業に参加する。食材は近くのスーパーや生協を利用している。利用者全員が自力で食事を摂っている。職員は見守りをして	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や栄養摂取、水分量の確保については日々記録をとっている。水分については毎食事時のみならず、10時、15時にお茶タイムを設けている。習慣や好みに応じた支援を実施している。	食事や栄養摂取、水分量の確保については日々記録をとっている。水分については毎食事時のみならず、10時、15時にお茶タイムを設けている。習慣や好みに応じた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアもできる方には見守り程度に留めている。介助が必要な方にはその人に応じた介助を施している。また歯ブラシの硬さなども本人の状況に合わせている。	口腔ケアもできる方には見守り程度に留めている。介助が必要な方にはその人に応じた介助を施している。また歯ブラシの硬さなども本人の状況に合わせている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人のADLに合わせてオムツやリハパン等を使い分けている。またそれぞれの排泄時間や排泄パターンを職員が把握し、各人に合った排泄介助を実施している。	各人のADLに合わせてオムツやリハパン等を使い分けている。またそれぞれの排泄時間や排泄パターンを職員が把握し、各人に合った排泄介助を実施している。	ケア版に排泄が記録され 声掛けや誘導でトイレ排泄をしている。排泄自立で布パンツの人も3名いる。おむつの利用者も時間で声掛けをしてトイレ排泄をしている。夜間はセンサーで利用者の動きを察知して現状のレベルを落とさないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の利用者様にあった運動を取り入れたり、こまめな水分摂取を促し便秘の予防に努めている。便秘などが起こってしまった際には、看護師とも協力し下剤を服用して頂いたりしている。また排便の有無も毎日チェック、記録している。	個々の利用者様にあった運動を取り入れたり、こまめな水分摂取を促し便秘の予防に努めている。便秘などが起こってしまった際には、看護師とも協力し下剤を服用して頂いたりしている。また排便の有無も毎日チェック、記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は設定しているが、極力利用者様の意向を尊重し入浴をして頂いている。また入浴介助に関してはできる事はご自身で頂くように心がけている。	入浴時間帯は設定しているが、極力利用者様の意向を尊重し入浴をして頂いている。また入浴介助に関してはできる事はご自身で頂くように心がけている。	週2回、午前中の中の入浴を基本としている。入浴を拒否する利用者には、声掛けや言葉を変えて入浴を勧めている。風呂場の手すりや洗い台も安全で使い易く工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(ゆず)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日のうち食事などの決まった時間以外は利用者様のペースで過ごして頂いている。人によっては昼寝をしたり、マイペースで寛いで頂いている。	一日のうち食事などの決まった時間以外は利用者様のペースで過ごして頂いている。人によっては昼寝をしたり、マイペースで寛いで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬については特に神経を使って管理、服用して頂いている。一人ひとりの服薬についてもしっかり飲み込めた事を確認するように努めている。	利用者様の服薬については特に神経を使って管理、服用して頂いている。一人ひとりの服薬についてもしっかり飲み込めた事を確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様数人でゲームをしたり、できる方には洗濯物や清拭類をたたんで頂いている。また食事の準備や片付けなどをスタッフと一緒にこなしている。	利用者様数人でゲームをしたり、できる方には洗濯物や清拭類をたたんで頂いている。また食事の準備や片付けなどをスタッフと一緒にこなしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	運営推進会議等で利用者様の意向を聞き、できる限りの外出支援に努めている。地域であった音楽コンサートなどにも職員同行の上、実施したこともある。	運営推進会議等で利用者様の意向を聞き、できる限りの外出支援に努めている。地域であった音楽コンサートなどにも職員同行の上、実施したこともある。	利用者の希望で買い物に同行する。地域の行事に参加したり、可能な限りの外気浴や、音楽会や花見になどで外に出ている。遠出の外出は家族にフィードバックして家族も共に参加したり、家族との外出の機会を楽しんだりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設ではお金をお預かりしていない。利用者様によってはご自身のお金で買物などをする事の支援を行っている。	基本的に施設ではお金をお預かりしていない。利用者様によってはご自身のお金で買物などをする事の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には家族とのやり取りは職員が行っているが、要望のある利用者様には電話など、家族とのやり取りができるよう支援している。	基本的には家族とのやり取りは職員が行っているが、要望のある利用者様には電話など、家族とのやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には時計に内蔵された温度計や湿度計を備え、環境には配慮している。また廊下などには利用者様の日常を写した写真などを掲示し、生活感をかもし出すよう努めている。	共用空間には時計に内蔵された温度計や湿度計を備え、環境には配慮している。また廊下などには利用者様の日常を写した写真などを掲示し、生活感をかもし出すよう努めている。	玄関を入ると、左手正面の飾り棚に手作りの紙細工の作品が並び来訪者を温かく出迎えてくれる。グループホームは2階に位置し、中心に食事用のテーブルがあり、程よい位置に椅子やソファやテレビが配置されて、2ユニットもパーテーションが開放され、広く落ち着ける共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはユニット毎にTVやソファを配置。皆様が思い思いに過ごせるよう、配慮している。	共用空間にはユニット毎にTVやソファを配置。皆様が思い思いに過ごせるよう、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室には以前より使用されていた家財道具等を可能な限り置いて頂く等、本人様が心地よく過ごされるよう努めている。	利用者様の居室には以前より使用されていた家財道具等を可能な限り置いて頂く等、本人様が心地よく過ごされるよう努めている。	ベッド、整理戸棚、エアコンが設置されている。利用者はそれぞれが、テレビや机、タンスなど使い慣れた小物を持参して、写真や花を飾り自分らしい居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、また居室や共用部分の窓にも複数のロックが施されている。利用者様の安全には充分配慮した建物になっている。	居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、また居室や共用部分の窓にも複数のロックが施されている。利用者様の安全には充分配慮した建物になっている。		